
狂っている

植崎健太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

狂っている

【NZコード】

N7433A

【作者名】

植崎健太郎

【あらすじ】

ある日前代未聞の事件が起こり日本の人口の70%が精神異常者になってしまった。そんな絶望的な社会で過ごす一人の少年の物語。

母親の奇声で目が覚める。

階段を降りると姉が廊下でラジコンカーを走らせていた。

台所に行くと父親が集めているゴキブリを二タニタしながら眺めていた。

いつからこうなったのだろう。

今から約半年前、テレビ局で電波ジャックがあつたらしい。

主犯の男は不気味な『音』と『映像』を全国に流したらしい。

その時テレビを見ていた人は精神に異常をきたしたのであつた。

電波ジャックがあつたのはお正月。

全てのテレビ局から電波が発信された。

お正月というのも重なつたせいで国民の70%は精神異常者になつていた。

僕の家族は僕以外全滅だつた。

食料などは国やアメリカからの援助があつて困りはしない。こんな時代でも学校はちゃんとやつている。

国から支給された魚の缶詰めとカンパンを食べ、出かけると隣のおばさんが玄関の前でブツブツと訳の分からぬこと言つていた。

今日もあちこちにおかしな人がいる。

動かない犬に吠えている人間。

裸で縄跳びを体に巻いて走つている人。電柱を愛しそうに抱きしめている人。

もう見慣れた光景だ。

学校に着くと授業は始まつていた。

少し遅刻したようだ。

授業の内容は算数の足し算引き算。

ちなみに僕は中学1年、生徒数はわずか13人だ。

あの事件以来、テレビを見ていなかつた人間も周りの影響か次第に少しずつおかしくなつていてるのだ。

「3 + 5はいくつでしょう?」

「6です」

などと中学生では有り得ない授業が繰り広げられている。

退屈な授業だ。

退屈な日々だ。

退屈な人生だ。

算数が終わると学校が終了した。

まだ午前10時だ。

今日は給食は出なかつた。

家に帰ると父がゴキブリを食べている。寿命は長くないとthought。

姉のラジコンが僕の足に激突してきた。

姉は泣きながら僕を叩いてきた。

僕は姉を突き飛ばし自分の部屋に閉じこもつた。

また母親の奇声が聞こえる。

僕はヘッドホンをしながらやり飽きたゲームのスイッチを入れた。

どれくらい時間がたつたのだろう?

外は真っ暗になつていた。

母親の奇声は聞こえない。

階段を降りると先ほど突き飛ばした姉が同じ場所で頭から血を流し倒れている。

台所に行くと父親が倒れていた。

口の中には数え切れないほどの小さな「キブリ」が「ラララ」とひらめいている。

僕はソーセージの缶詰めとカンパンを食べて、自分の部屋に行き、布団に入った。

僕の目から大粒の涙が溢れてきた。

家族が死んだからじゃない。

家族が死んで悲しいと思つてしまつたのだ。

僕はまだ狂つていないので絶望した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7433a/>

狂っている

2010年11月1日09時51分発行